

1 単元（題材）名 作者の深い感情や自然描写の豊かさを読み味わおう。（唐詩 絶句）

2 本単元（題材）の目標

(1) 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現について理解することができる。

(知識及び技能)

(2) 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。

(思考力、判断力、表現力等)

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

(学びに向かう力、人間性等)

3 単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現について理解している。	作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	作者の深い感情や自然描写の豊かさを読み味わい、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を知り、それを鑑賞文として自分の言葉で書こうとしている。

・この単元で用いる主たる言語活動例

言語活動例オ 古典から受け継がれてきた詩歌や芸能の題材、内容、表現の技法などについて調べ、その成果を発表したり文章にまとめたりする活動。

4 単元について

(1) 教材観

唐詩は中国の詩の歴史の中で形式、内容共に最高峰とされている。現代文の詩・俳句・短歌の単元から本単元へつながっていくため、詩の体系的な学習を意識しながら、漢詩における一首の構成、一句の字数、対句や押韻などの基本的な事項についての理解を深めたい。また、取り上げる6作品は自然美、望郷、離別、友情などテーマが多岐にわたることから、詩中の語句からイメージを膨らませたり、作詩の背景に触れたりすることで、それぞれの作者の深い感情に迫りたい。

(2) 生徒観

音読やペアワークなどへの取り組みはよく、クラス内の協力関係はできている一方で、自力で問題を解く、自分の考えを書く・話すといった課題に関しては抵抗感があるように見受けられる。また、校内の考査や外部模試の結果からは、現代文、古文に比べ、漢文の成績が伸び悩んでいることが分かる。

(3) 指導観

詩の形式、詩中の語句の意味、作詩の背景を丁寧に説明し、テーマに迫る詩のイメージを持たせる。解釈の根拠となる内容をしっかりと提示することで、自分の解釈に自信を持たせ、意欲的に言語活動に取り組めるような準備をする。言語活動では、漢詩を1首選んで鑑賞文を書くが、書く力の不足によって読むことの成果が出せないことがないよう、モデルとなる鑑賞文を用意し、構成等の指導をする。

5 単元（題材）の指導計画（4時間扱い）

次	時	学習内容・活動	指導上の留意点	評価規準【評価方法】 ○指導に生かす評価 ◎記録に残す評価
1	1	<p>課題 訓読のきまりを理解しよう。</p> <p>1 絶句に関する基本的な事項について知る。 (字数・句数・構成・対句・押韻)</p> <p>まとめ（結論） 訓読のきまりを理解できている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 単元の見通しをもつ。 現代文の詩・俳句・短歌の学習からの流れを意識させる。 中学までの学習に差があることを踏まえ、基礎的な内容から指導する。 	<p>◎古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現について理解している。 (知識・技能) 【記述の点検】</p>
	2	<p>課題 それぞれの漢詩に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えよう。</p> <p>1 「登鶴鶴楼」王之涣 2 「静夜思」李白 3 「涼州詞」王翰</p> <ul style="list-style-type: none"> 詩の形式、書き下し、音読、現代語訳、作詩背景、作者について知る。 中国語の朗読CDを聞き、味わいの違いを知る。 初読の感想、詩のイメージについて簡潔にノートに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 詩の形式(構成・対句・押韻)は数名指名しながら確認する。 書き下し文は数名指名し、黒板に書かせる。 予習に差があることを踏まえ、授業進度に注意しながら、応用的な課題も準備する。 中国語の朗読CDを聞く際、訓読した際の押韻と中国語の押韻との違いなどを意識させる。 言語活動として鑑賞文を書くことを伝え、初読の感想や詩のイメージなどについても書き残すよう伝える。その際は、語句や表現の特徴に基づく解釈と自分の意見が混合しないよう注意させる。 初読の感想、詩のイメージが書き込めていない生徒には、主題に通じるキーワードを提示する。 	<p>◎作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 (思考・判断・表現) 【記述の確認】</p>
	3	<p>4 「送元二使安西」王維 5 「楓橋夜泊」張継 6 「山行」杜牧</p> <ul style="list-style-type: none"> 1～3と同様に確認する。 <p>まとめ（結論） それぞれの漢詩に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えることができている。</p>		
2	4 本 時	<p>目標：漢詩を1首選び、鑑賞文を書く</p> <p>1 1次の学習内容を振り返り、本時の見通しをもつ。</p> <p>課題 鑑賞文を書こう。</p> <p>2 漢詩を1首選び、音読をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1次の学習内容に不備が見られる生徒に対し、個別に指導する。 音読の際は対句や押韻などを意識させる。 	<p>◎作者の深い感情や自然描写の豊かさを読み味わい、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を知り、それを鑑賞文として自分の言葉で書こうと</p>

<p>3 ワークシートを活用し、鑑賞文の構成を考える。</p> <p>4 ワークシートに基づき、鑑賞文を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・穴埋め形式で鑑賞文の段落構成が把握できるような形式のワークシートと、字数指定などの最低限の条件が書かれたワークシートの2種類を両面印刷し、能力に応じて使い分けさせる。 ・読み取った漢詩のイメージを鑑賞文にふさわしい語彙に改められない生徒を想定し、ニュアンスの似た語彙を複数提示する。 ・作品の読みを深めるための活動であるということを意識させ、文章としての完成度にこだわらず、まずは自分の力で取り組もうとする姿勢をとるように声かけする。 ・生徒同士で鑑賞文を回し読みをする。 ・書き進められない生徒には他者の鑑賞文を参考として新たな着眼点に気付けるようにする。 	<p>している。</p> <p>(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>【記述の分析】</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>まとめ(結論) 鑑賞文を書くことができています。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・本単元の振り返りを行う。 	